

平成30年度 学校評価 年度末評価

本年度の 重点目標	1 生徒一人一人の実態を把握し、実態に即した分かりやすい授業のための指導方法の工夫と改善 2 生徒の自己認識を深めるための支援の充実 3 教科会の充実とともに、現職研修、職業種目研修、授業研修の積極的な実施 4 行事の精選、会議の効率化、部活動の見直し等による教職員の多忙解消の促進				
担当	重点目標	番号	具体的方策	※	評価結果と課題
総務部	・学校便り、PTA 便りを通して、生徒が本校をより深く知ることができるようにする。 ・会議日程を見直し、授業研究や生徒指導の充実を図る。	2 1	・学校便り、PTA 便りを教室に掲示する。 ・学校便り、PTA 便りの発行を生徒に知らせ、読む時間や発表する機会を設定する。 ・会議の効率化に向けて検討し、教材研究や生徒指導の時間を捻出できるよう改善する。	A B	・ <u>教室掲示の学校便り、PTA 便りにルビを振り、生徒が自分で読めるようにした。拡大し、生徒の感想と一緒に1階の光庭横に掲示したところ、生徒が読んだ感想を・友達や教師に伝える姿が見られた。学校行事や他学年の取組への関心も高まった。</u> ・ <u>学年会などの会議を同日にまとめることで、会議日数を減らすことができた。部活動に参加できる職員が増え、生徒指導の充実を図ることができた。引き続き、会議が効率的に進められるよう日程調整を行っていく。</u>
教務部	・新学習指導要領について理解を深める。 ・生徒の自己認識を深める活動を行うための体制づくりを行う。	1 2	・新学習指導要領について、伝達講習を行い、職員理解を深める。 ・教務部の中で担当を決め、自己認識を深める活動を進めるようにする。また、年度末には学年主任・担任に反省アンケートをとり、取組の成果を職員にフィードバックする。	B B	・ <u>現職研修で全職員に伝達講習を行い、理解を推進した。生徒が主体的に学び、より社会自立できるようにするには、まずは毎日の授業等の指導の在り方を見直していくことが必要となることを共通理解ができた。今後、高等部の伝達講習での情報を発信していく。</u> ・ <u>教務部の中で担当を位置付け、組織的に継続して取り組める体制を整えた。今後は、学年主任や担任から面談の様子を確認する。今年度の反省を来年度に反映できるように準備をしていく。</u>
教育支援部	・生徒が分かる授業で、生徒の成長と教科会の充実を図る。 ・ICT環境の整備を図るとともに、ICT機器を使用した効果的な指導ができるようにする。	1 3 1 3	・公開授業のテーマを設定し、テーマに沿った教科会での話し合いや公開授業の実施、振り返りを行う。 ・授業の評価の仕方を工夫し、適切な評価を行う。 ・ICT環境を整備する。 ・タブレット端末研修を実施する。 ・ICT機器を使用した効果的な取組や目立った取組を、通信を発行し職員に伝える。	A B	・ <u>公開授業では、今までと違った授業展開や教材の工夫などが見られた。評価については、各教科効果的な指導ができ、生徒の成長が見られたという評価が多かった。今後も生徒が分かる授業を教科会で考えていけるとよい。</u> ・ <u>情報機器の購入やタブレット端末の環境整備を進めることができた。年々、タブレット端末の活用方法に変化が見られるようになってきたが、今後も多くの先生が生徒の学習効果上がるような取組ができるように研修や通信の内容等を考えいきたい。</u>
生徒指導部	・生徒が中心となる活動を増やし、自主性を養う。 ・道徳教育を中心に規範意識やいじめをしないという意識を高める。	1 2 1 2	・委員会や会議等の司会を行う場を設定する。 ・いろいろな行事の企画、運営に際して助言をする。 ・アンケート（生徒会通信）を作成し、結果を掲示する。 ・SNS等の適した使用法を伝える。	A B	・ <u>委員会活動を中心に、会議の進行や行事の企画を行うことができた。今年は美化活動を運営することができ、少しずつ自分たちでできることを増やしていきたい。</u> ・ <u>アンケート結果を掲示することにより、困り感や適した使用法など伝えることができた。しかし、道徳教育でモラル的な内容の授業を行うが、多々トラブルがあり、今後も規範意識向上の取組みが必要である。</u>

保健体育部	<p>・生徒・教職員が安心・安全に過ごせるように、相談活動の充実と学校環境衛生の維持・改善を図る。</p> <p>・健康・安全の知識・技能を習得し、実践力を高める。</p>	2 3 2	<p>・生徒が心の悩みや心配事を相談しやすい環境づくりを行う。</p> <p>・危険予知トレーニングを全学年、全ての職業種目で実施する。</p> <p>・校務部会後、校内巡視を行い、危険箇所を調査し、早急に改善する。</p> <p>・簡単な手当の仕方や、けが防止のための取組を生徒・教職員に伝達する。</p>	A B	<p>・生徒の様子を把握し、学年、寄宿舎の職員と共有して対応することができた。また、悩みを相談できる機関や、自分から相談する大切さを伝えることができた。今後も生徒が自分から相談できるような環境を整えていきたい。</p> <p>・危険予知トレーニングを全学年、全ての職業種目で実施することができた。今後も年間計画に取り入れ、継続して実施したい。</p> <p>・校務部会後、校内巡視を行い、改善点を知らせることができた。毎月行うことで、危険箇所を減らすことができた。</p> <p>・生徒保健委員が保健室の利用状況やけが防止の方法等を調査し、保健集会で発表した。安全に関する意識を向上することができた。</p>
進路指導部	<p>・全員就職、定着を目指し、職員間の共通理解を図り、進路活動を行う。</p> <p>・事業所が本校、生徒に対する理解を深める取組を行う。</p>	1 3 1 3	<p>・会議や研修で企業が求める生徒像や進路の進め方を伝える。</p> <p>・同窓会総会で卒業生のアンケートをとり、経年による卒業生の変化を知る。</p> <p>・事業所の面接会等で、映像コンテンツを用い、本校のPRを行い、学校見学を促す。</p> <p>・事業所に就業・生活支援センターの事例を伝え、卒業後の支援方法について理解を深める。</p>	A B	<p>・事業所の方から御講演をいただき、求められる生徒像を職員間で共有することができた。</p> <p>・進路の節目ごとに学年団に進路の進め方を確認し、共通理解を図った。</p> <p>・結果、考察について職員に展開することができ、在学中に身に付けたい力など、進路指導の参考とすることができた。</p> <p>・実習をする上で、事業所の仕事の切り出しの参考になり、学校にも興味をもっていただき、学校見学にもつなげることができた。</p> <p>・新規の事業所には、特にセンターの事例は参考になった。雇用に当たっての安心材料となり、さらに生徒の理解が深まった。</p> <p>・本校の魅力を事業所へ発信する機会をもっと増やしていきたい。</p>
寮務部	<p>・行事の目的や内容、実施時期を見直し、目的意識をもって取り組み、達成感を得ることができるようにする。</p> <p>・医薬品の取扱い及び体調不良時の対応について、保護者と共通理解を図る。</p>	2 1	<p>・目的を吟味し、内容を精選するとともに、しっかりと計画を立て、目的を意識し、生徒・職員が見通しをもって取り組むことができるようにする。</p> <p>・学校HPから服薬依頼書がダウンロードできるようにするとともに、寄宿舎での医薬品の取扱いについて懇談会等を活用し、保護者と共通理解を図る。</p> <p>・生徒一人一人の実態を把握するとともに、個に応じた具体的な支援方法について職員間で共通理解を図り、生徒を支援する</p>	A B	<p>・スプリングフェスタや部屋別親睦活動など、前年度の反省を踏まえ、行事の目的をよく吟味して行事計画を立案することができた。目的を達成する成果を上げることができた。</p> <p>・服薬依頼書を学校HPからダウンロードできるようにし入手しやすくしたことで提出状況の改善など一定の成果が上がった。今後は、医薬品の取扱い及び体調不良時の対応について保護者との共通理解をより一層深めていく。</p>
運営委員会 部会	<p>・教職員の多忙化の解消を図る。</p>	4	<p>・昨年度、試行的に多忙化解消の取組で実施した内容を継続し定着を図る。</p> <p>・仕事の分担、年次休暇の取得促進、定時退校日の遵守等、多忙化解消につながる方法を考え実践する。</p>	B	<p>・効率のよい会議設定時間の工夫、会議運営の効率化、会議のない日の設定を増やしたことにより(昨年より21日増)、個人の仕事を進める時間を昨年より確保することができた。</p>

	<p>・職員の負担が軽減するよう部活動全般を見直す。</p> <p>・寄宿舎行事の効率的な運営の在り方を考える。</p>	<p>4</p> <p>4</p>	<p>・指導体制の見直し、効果的な運営方法について検討する。</p> <p>・前年踏襲ではなく、行事の目的や内容を見直す。</p> <p>・職員の連携を高め、チームとして寄宿舎の運営に取り組むようにする。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・各部の<u>仕事を顧問で分担</u>したことで、一部の職員に負担が偏ることを軽減できてきた。</p> <p>・部活動開始時に指導に当たる職員を固定したり、その日の担当職員の割振りを確実にし、見える化したりしたことで<u>運営上のムダが削減</u>できた。</p> <p>・行事の目的、内容を見直し、<u>納涼会からスプリングフェスタとして実施時期や運営方法を改善</u>した。職員間での連絡や調整を密に行い、行事を成功させることができた。</p>
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<p>各校務分掌の重点目標を評価項目とし、各重点目標の達成度を下記評価基準に則して評価する。 (各校務分掌の重点目標は、上記「本年度の重点目標」に関連した内容を設定し、番号で示した。)</p>				

※評価基準

A：計画どおりに進んでいる。

B：ほぼ計画どおりに進んでいる。

C：あまり計画どおりに進んでいない。

D：計画どおりに進んでいない。